

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和7年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 2月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あすか福祉会の企業理念である「尊厳」を基にご入居者様がその人らしい生活ができ、楽しく生活して頂く事が出来るようにご入居者様への目配り・気配り・心配りを行いながらケアに努めています。まだ、コロナ禍が続いてはありますが、ご家族との面会・外出については以前に比べると出来る限り行って頂くようになり、ご入居様・ご家族様も喜んであります。今年度は、敬老会で舞踊の方々にも来て頂いています。又、その中で認知症の進行を軽減できるように心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人理念である“尊厳”を掲げ、“入居者に寄り添う”介護の実践に努めている。意思の表出困難な人には、会話ができなくても寂しくないように職員が寄り添っている。対馬では地域風土が異なることからその土地の料理を出したり、出身地の言葉で語り掛ける等、本人が安心できるように配慮している。職員の提案から、木酢液での消臭除菌や食事時のエプロン着用取り止め等を行っており、職員の負担軽減ではなく、入居者の尊厳を守ることを最優先している。また、新入職員に以前の職場での経験を聞いて共有し、支援に役立てており、話しやすい雰囲気職場であることが見てとれる。事業所は対馬の官庁中心地に立地し、隣接する市役所や社会福祉協議会と協働の機会も多い。また、近隣住民からの言葉掛けやボランティアの申し出なども届いている。今後、地域密着型の福祉拠点としての展開が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基にご入居者様が自分らしく生活する事が出来るように職員が理念を共有していきながらご入居者様に寄り添い思い汲み取るように心がけている。	法人理念である“尊厳”の額を倫理綱領と共に玄関に掲げ、毎月のミーティング時に理念に基づいたケアの実践について話している。職員には“入居者に寄り添った介護”の実践を説き、食事時にエプロンを使用することは本人の意思に反しているのではないかなど、具体的に検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ、コロナ禍と言うこともあり、なかなか地域行事には参加してない現状だが、面会・ご家族との外出・病院受診等での知人・ご家族・親戚等とのふれあいを大切にはしている。又、運営推進会議時は、委員の皆様とのふれあいもあったり、近隣住民との挨拶もあります。	自治会の回覧板や広報誌が届いており、入居者も閲覧している。敬老会では地域のボランティアメンバーが出し物を披露している。また、事業所から近隣に配り物を届けている。近所住民から古新聞の提供があるなど、日常的に地域とのつきあいがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族・見学者・入所相談等の際には、個別に相談等には応じてはいるが、地域全体には、活かされていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者の生活の現状様子等も報告しながら、委員の方々の様々の意見・要望聞き、施設での運営・サービスに活かし、現状を共有して頂いています。	年6回、市担当課職員、包括支援センター職員、知見者、住民、家族代表が出席している。議事録からは、事業所の現況や行事、事故ヒヤリハットの報告が行われており、具体的な意見交換が確認できる。家族には広報誌にて周知し、今後は請求書に議事録を同封する予定である。また、消防団の出席を依頼することを検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、何かあったら連絡を取り合い連携を図ることが出来ている。	事業所は市役所に隣接しており、社会福祉協議会からは、福祉に関する映画上演の案内や災害想定での炊き出し訓練への誘いがあっている。介護認定の更新時は、家族の代行として対応している。更に、入居者に関して担当課職員の訪問がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から身体拘束・接遇・虐待などは注意しながら、定期的に勉強会・研修会等を行い意識付けを行っています。日常の業務の中でも気を付けています。又、日中は玄関の施錠をすることなく見守り等を徹底しています。	事業所は、運営推進会議内で身体拘束実施例がないことを表明している。年2回の職員研修を実施し、毎年7月には“身体拘束ゼロへの手引き”をもとに職員に再確認を促している。スピーチロックに関しては、気になる職員の言葉遣いがあった時にはその都度指導している。職員会議内での適正化委員会設置を提案している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・接遇・虐待など定期的に勉強会・研修会を行い、日々の業務の中でも職員同士で注意し合い、丁寧に話をして理解してもらえるように気をつけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用されている方はおられない為、必要な方が出てきた際は、社会福祉協議会等との連携をとって行きながら職員も学んでいきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂く上で同意書に記名・捺印をして頂いています。重要事項説明書の変更等にもご理解頂き捺印等も頂いています。又、その後疑問点があれば、再度説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだ、コロナ禍と言うこともありますが、ご家族とのコミュニケーションも大事にしており、ご家族との面会時・ご家族との外出実施時・事業所便り・ホームページ・電話等での相談しやすい状況を作っています。また、意見箱を設置している。	苦情解決は契約時に重要事項説明書を用いて説明している。毎月、1ヶ月の様子を写真掲載した便りを発送し、遠方の家族には電話で様子を伝えている。現在は30分程度各階の事務所で面会している。面会時に入居者の状況を説明しており、家族から不足している物はないかと質問がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中でも気づきや提案を相談し合って反映させています。なので、職員とのコミュニケーションを大事にしています。	朝の申送りの他、2階では毎月ミーティングを行っており、職員は意見やアイデアを出して検討している。職員の希望に沿ってリフト浴の導入を図り、建物の構造上設置ができないことがわかっている。管理者は職員の意見等を重視し、実現するために手を尽くしていることがわかる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価もあり、職場環境の向上には力を入れており、働きやすい環境（職員の過程環境に合わせた勤務体制・有給取得率の向上等）又、賃金もアップされ働きやすい環境整備を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術等についてのスキルは経験を踏まえながら成長はしている。それ以外の専門知識も含めた分野については日々の業務内での経験と勉強会等での知識向上に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類になり、交流会・研修会等も行うようになり、会社内での研修会・勉強会も増える状況にあります。又、Zoonでの会議・研修会なども行うようになりました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前に調査をさせて頂き、ご本人様の困りごとや不安に感じておられる事、要望等をお聞きすることで少しでも安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も不安に感じてあると思われるので、ゆっくりと話をお聞きして少しでも不安なく預けて頂く事が出来るように傾聴に努めて不安を解消して頂く事に努めています。又、ご家族様の気持ちに寄り添う事ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、また、居宅ケアマネ・ご家族・本人様・施設ケアマネでボタンタッチ(紹介)を兼ねて和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の状況を踏まえ、残在機能を十分に発揮して頂きながら、生活の中で洗濯物を畳んだり、食事のおぼんを拭いて頂いたり、役割を持って生活して頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年より、ご家族との面会・外出することを行っており、その際に、日頃の様子をお伝えし情報を共有し、職員・ご家族との信頼関係を大事にしています。又、請求書と一緒に本人様の状況を文書にしてお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだ、コロナ禍ではありますが、ご家族様との面会・外出等も行い、田舎での親戚・知人等にも再開し、病院受診時にも会う事で楽しく懇談して頂くように支援しています。	家族の他、知人、友人の面会希望があり訪れている。以前介護の仕事に従事していた入居者が、昔の仕事を思い出し職員と同じように他の入居者を支援したり、様子を報告するなど本人の生きがいとなっている。コロナ禍も落ち着いたため、家族とドライブしたり、出掛けることを支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の認知度・ADL・IADL等を踏まえながらホールや居室での過ごし方を対応させて頂いています。又、ホールでの食事以外の10時・15時にお茶会を提供し、気の合う仲間と話をしたり職員との会話を楽しんで頂くように、なるべく孤独にならないように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、ご家族・親戚との面会も行い、ご家族が希望すればご家族との外出も行っています。但し、外泊については、まだコロナ禍で中止しています。心配ごとがあれば、いつでも相談下さいとお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活歴を大切に、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人様からの聞き取りが困難な場合は、ご家族やサービス提供事業所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いています。	起床は一度声を掛けて本人のペースで起床している。就寝もそれぞれのタイミングで居室に入り、テレビを観るなど過ごしている。表出困難な人には職員が尋ねて表情を見て判断し、把握できたことは申し送りノートに記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全項目と同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、職員間で記録や申し送りを密に行い、気づきを大切に情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な視点からの気づきや提案を大事にプランを把握するように努めています。	事業所では、毎月のミーティング内で入居者の状態を検討し、気づき等を個人台帳に記録し、介護計画に反映している。家族には介護計画を説明しているものの、中には本人・家族の意向が確認されていないものや、介護計画への同意がとれていないものがある。	入居者の状態に大きな変化がなくても意向等は常に変わるものである。本人・家族の意向を反映した介護計画の作成が待たれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助の記録への日々の様子を記録することは勿論のこと、些細な気づきも職員間で共有できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りのニーズに対応できるように心がけてはいるが、現状出来ることが限られてしまっている。柔軟な対応は、時と場合により後回しになる事もある為、出来るように考え方を柔軟かくして対応するように声掛けを行うように気を付けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ、コロナ禍ではあるが、今年は、敬老会での舞踊の方々の訪問もあり、交流をしています。又、今後は、保育園児や他の交流も行っていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族様の意向を大事に、訪問看護かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けることが出来ています。	在宅時からのかかりつけ医を継続することができるが、現在ほぼ全員が対馬病院を利用している。受診時は主に職員が付き添っている。看護師の資格を持った介護支援員がいる他、毎週訪問看護師が来所して、バイタル等の確認し助言している。緊急対応体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連絡・情報の共有を図りながら、早期に発見・早期に治療のもと支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないように病状の把握や病院関係者との連携を図っています。医療機関との情報の共有・交換については、対馬版ケアパスを活用しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、書類などでの説明はしているが、令和6年については看取りまでは出ていない現状です。但し、令和4年には看取りを2階が実施しています。ご家族の希望にもよるもので、現状病院でとの事が多く、今後施設での看取りが出来るように、病院との話し合い等・研修会が必要となります。(訪問診療での話し合い1度あり)	“重度化した場合の対応の指針”を整備し、対馬病院が往診できるようになったことから、事業所での看取り対応についても検討している。事業所では医療措置ができないこと、24時間オンコール体制が求められることを家族に説明し、終末期の対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時等の対応については、頭では分かっているが、いざその場に会ったとしても慌ててしまい冷静さに欠けてしまいます。普段から、慌てる事がなく、冷静に対応できる訓練・研修等を行って参ります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては、消防訓練も行い、地域との協力体制作りに努めています。自然災害訓練については、令和5年6月に(水害)実施しているが、令和6年については自主訓練等も含め実施できず。但し、水害等については職員には、施設の2階への避難では周知しています。(消防署も許可済みです)	夜間想定も含めて年2回の火災想定訓練を実施している。消防署立会い訓練は確認できない。更に事業所の傍に川があり、集中豪雨時に氾濫の可能性のあることへの対応、停電時の対策、避難完了サイン、身元連絡カード等の整備はこれからである。隣接する市役所、社会福祉協議会から災害時炊き出し訓練の誘いがあっている。	地域との連携体制の構築や事業所内での災害対策への十分な検討、対応に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるように、敬語を使い敬う言葉かけを職員で共有し、なるべく笑顔で対応できるように心がけてはいます。	理念“尊厳”であり、職員は入居者の尊厳を重視して支援している。苗字にさん付けで呼び掛け、言葉遣いは方言も含めながら丁寧な表現を心掛けている。本人が不在時の居室はドアを締めている他、個人情報とは所定の場所に保管している。ただし、写真掲載の同意書はこれからの取組である。	入居者の尊厳、肖像権に配慮し、便り等に掲載する写真について、家族の同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談しやすい雰囲気作りに努め、本人様が気持ちよく自分の思いや希望・意見を笑顔で遠慮なく表現できるように関りを意識して日頃より、気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに寄り添いながら穏やかに過ごせるように、その日の体調・気分・表情を伺いながら支援が出来るように努めています。又、一人ひとり自由に過ごせるように、気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診・ご家族との外出時・誕生会は勿論の事、大きな行事等や当日着用する洋服もその人その人のこだわりを大事にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査等を行い対応しているが、入居も長期になると趣味・嗜好も変化が見られ、注意をしながらバランス良い食事の提供と安全に摂取出来るように工夫しています(一口大・刻み等)その人に合わせています。片付けも含め出来る事が手伝って頂いています。	職員がバランスを考えた一週間分の献立を立てて、提供している。郷土料理のいりやきやろくべえ、年越しそばは対州そばを提供し喜ばれている。誕生日は寿司、茶碗蒸し、ケーキで祝っている。入居者は芋を洗ったり、皮を剥いたり、トレーを拭くなど手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、記録し一人一人の量を把握しています。特に、水分量に対しては脱水等の危険性もある為、注意を払っています。お茶タイム時にも、コーヒーや紅茶等の種類も増やして摂取して頂いています。又、食事についても、摂取量が減少傾向の方については、主治医に相談したり、栄養食品等も飲んで頂く事もあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内(ケア)の清潔保持は、出来ない方は職員の介助で、出来る方は、ご自分で確実に行っています。本人様の力に応じて行っています。又、誤嚥の危険性のある方は、食事の前にはうがいを行って頂いたりしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や排泄間隔に合わせて、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。	職員は入居者の排泄をチェックしながら定期的に誘導し、失敗しないように配慮している。入居者はそれぞれにトイレで排泄しており、両ユニットともポータブルトイレの利用はない。支援する中でパッドサイズを検討しており、適したサイズとなるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをしたり、食物繊維や水分を十分に摂って頂くことは心がけてはいるが、慢性的な便秘の方にはどうしても緩下剤でのコントロールをさせて頂いています。(医師の指示もあり)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴支援を行っています。お一人お一人の体調・気分・レベル・ペースに合わせて介助しています。レベル低下により、浴槽に入る事が困難な方はシャワー浴になるが、足浴や浴槽のお湯をかけたたりして、温まってもらっています。又、浴槽に入る方は入浴剤等も入れて入浴して頂いています。	日曜日以外は湯を沸かし、週3回の入浴を支援している。入浴拒否や体調不良の時は、翌日に変更している。介護度の高い入居者はシャワー浴である。事業所では、入浴剤の他、木酢液を利用しており、保温や保湿効果に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んでもらっています。又、夜間の睡眠の妨げにならない様に配慮・働きかけも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、ご入居様の状況・状態に応じてその都度、訪問看護師及び主治医に伝えて処方の内容の検討を相談したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご入居様、お一人お一人になるべく役割を持って頂き、可能な限りしていただく事で生活が充実につながるよう支援しています。(洗濯干し・畳み・お盆拭き等)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、まだコロナ禍ですが、病院受診での外出やコロナ禍で出来なかった、ご家族様との外出が出来るようになり田舎の親戚等に合ったり、買い物をしてきたりと外に出掛ける支援を行っています。	コロナ禍が落ち着くまでは全員でのドライブなどは控えている。個別に病院受診の際に自宅の周辺までドライブしたり、時には受診後に家族と一緒に外食するなど、戸外での楽しい時間を支援している。今後は、事業所の通りに咲く桜の花見を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の能力、希望に応じご家族様の意向も聞きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、事務所で管理とさせて頂いています。その中で、適		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙が届いたら、ご自分で読めそうな方には、誰から来たのか報告し渡しています。難しい方には、読んであげたりしています。電話については、聞き取れる方は本人様にお繋ぎし、ご自分で話しをされていますが、難聴の方については、近くにいて言葉を伝えるなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、毎日掃除等を行ったり、各とこに消臭剤等置くなど清潔の保持に努めています。又、明るさ・温度にも気を配り、心地良く過ごして頂けるよう工夫はしています。そして、季節の花をテーブルに飾ったり、毎月、壁の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしています。	広々としたリビングでは、車椅子での移動や歩行訓練を安全に行うことができる。オール電化のオープンキッチン、食事の支度をしている職員の様子が見え、調理の音や匂いから食欲をそらせる家庭的な雰囲気がある。雛人形などの季節の飾りや名前を記した当月の誕生日祝いを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ等複数活用し、気の合う入居者同士で会話されたり、ゲーム等をしたり、その中に職員も関りながら過ごして頂いています。又、一人でくつろげる時間が持てる居場所づくりにも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くようにご家族にもご協力頂きながら、本人様が穏やかに過ごせるように環境作りに努めています。極力、自宅で使い慣れた物を使って頂いてはいます。	居室には、家族写真や旅行土産、誕生日祝いの色紙を飾り、温かな雰囲気である。お気に入りの服をハンガーに掛けたり、化粧道具を備えたりと入居者の生活スタイルが窺える。自分の部屋がわかるように、入口にぬいぐるみを飾るなど細かな配慮を施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく・分かりやすく・安全にも配慮しながら自立した生活が送れるよう配慮しています。例えば、入居者の動く範囲には物を置かない等工夫はしています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基にご入居者様が自分らしく生活する事が出来るように職員が理念を共有していきながらご入居者様に寄り添い思い汲み取るように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ、コロナ禍と言うこともあり、なかなか地域行事には参加してない現状だが、面会・ご家族との外出・病院受診等での知人・ご家族・親戚等とのふれあいを大切にはしている。又、運営推進会議時は、委員の皆様とのふれあいもあったり、近隣住民との挨拶もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族・見学者・入所相談等の際には、個別に相談等には応じてはいるが、地域全体には、活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者の生活の現状様子等も報告しながら、委員の方々の様々の意見・要望聞き、施設での運営・サービスに活かし、現状を共有して頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、何かあったら連絡を取り合い連携を図ることが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から身体拘束・接遇・虐待などは注意しながら、定期的に勉強会・研修会等を行い意識付けを行っています。日常の業務の中でも気を付けています。又、日中は玄関の施錠をすることなく見守り等を徹底しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・接遇・虐待など定期的に勉強会・研修会を行い、日々の業務の中でも職員同士で注意し合い、丁寧に話をして理解してもらえるように気をつけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用されている方はおられない為、必要な方が出てきた際は、社会福祉協議会等との連携をとって行きながら職員も学んでいきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂く上で同意書に記名・捺印をして頂いています。重要事項説明書の変更等にもご理解頂き捺印等も頂いています。又、その後疑問点があれば、再度説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだ、コロナ禍と言うこともありますが、ご家族とのコミュニケーションも大事にしており、ご家族との面会時・ご家族との外出実施時・事業所便り・ホームページ・電話等での相談しやすい状況を作っています。また、意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議・ミーティングを開催し、職員からの気づきや提案を業務に反映しています。(2階)又、日頃の業務の中でも気づきや提案を相談し合って反映させています。なので、職員とのコミュニケーションを大事にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価もあり、職場環境の向上には力を入れており、働きやすい環境(職員の過程環境に合わせた勤務体制・有給取得率の向上等)又、賃金もアップされ働きやすい環境整備を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術等についてのスキルは経験を踏まえながら成長はしている。それ以外の専門知識も含めた分野については日々の業務内での経験と勉強会等での知識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類になり、交流会・研修会等も行うようになり、会社内での研修会・勉強会も増える状況にあります。又、Zoonでの会議・研修会なども行うようになりました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前に調査をさせて頂き、ご本人様の困りごとや不安に感じておられる事、要望等をお聞きすることで少しでも安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も不安に感じてあると思われるので、ゆっくりと話をお聞きして少しでも不安なく預けて頂く事が出来るように傾聴に努めて不安を解消して頂く事に努めています。又、ご家族様の気持ちに寄り添う事ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、また、居宅ケアマネ・ご家族・本人様・施設ケアマネでボタンタッチ(紹介)を兼ねて和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の状況を踏まえ、残在機能を十分に発揮して頂きながら、生活の中で洗濯物を畳んだり、食事のおぼんを拭いて頂いたり、役割を持って生活して頂いております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年より、ご家族との面会・外出することを行っており、その際に、日頃の様子をお伝えし情報を共有し、職員・ご家族との信頼関係を大事にしています。又、請求書と一緒に本人様の状況を文書にしてお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだ、コロナ禍ではありますが、ご家族様との面会・外出等も行い、田舎での親戚・知人等にも再開し、病院受診時にも会う事で楽しく懇談して頂くように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の認知度・ADL・IADL等を踏まえながらホールや居室での過ごし方を対応させて頂いています。又、ホールでの食事以外の10時・15時にお茶会を提供し、気の合う仲間と話をしたり職員との会話を楽しく頂くように、なるべく孤独にならないように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、ご家族・親戚との面会も行い、ご家族が希望すればご家族との外出も行っています。但し、外泊については、まだコロナ禍で中止しています。心配ごとがあれば、いつでも相談下さいとお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活歴を大切に、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人様からの聞き取りが困難な場合は、ご家族やサービス提供事業所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全項目と同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、職員間で記録や申し送りを密に行い、気づきを大切に情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な視点からの気づきや提案を大事にプランを把握するように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助の記録への日々の様子を記録することは勿論のこと、些細な気づきも職員間で共有できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りのニーズに対応できるように心がけてはいるが、現状出来ることが限られてしまっている。柔軟な対応は、時と場合により後回しになる事もある為、出来るように考え方を柔らかくして対応するように声掛けを行うように気を付けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ、コロナ禍ではあるが、今年は、敬老会での舞踊の方々の訪問もあり、交流をしています。又、今後は、保育園児や他の交流も行っていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族様の意向を大事に、訪問看護かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けることが出来ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連絡・情報の共有を図りながら、早期に発見・早期に治療のもと支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないように病状の把握や病院関係者との連携を図っています。医療機関との情報の共有・交換については、対馬版ケアパスを活用しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、書類などでの説明はしているが、令和6年については看取りまでは出ていない現状です。但し、令和4年には看取りを2階が実施しています。ご家族の希望にもよるもので、現状病院でとの事が多く、今後施設での看取りが出来るように、病院との話し合い等・研修会が必要となります。(訪問診療での話し合い1度あり)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時等の対応については、頭では分かっているが、いざその場に会ったとしても慌ててしまい冷静さに欠けてしまいます。普段から、慌てる事がなく、冷静に対応できる訓練・研修等を行って参ります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては、消防訓練も行い、地域との協力体制作りに努めています。自然災害訓練については、令和5年6月に(水害)実施しているが、令和6年については自主訓練等も含め実施できず。但し、水害等については職員には、施設の2階への避難等とは周知しています。(消防署も許可済みです)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるように、敬語を使い敬う言葉かけを職員で共有し、なるべく笑顔で対応できるように心がけてはいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談しやすい雰囲気作りに努め、本人様が気持ちよく自分の思いや希望・意見を笑顔で遠慮なく表現できるように関りを意識して日頃より、気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに寄り添いながら穏やかに過ごせるように、その日の体調・気分・表情を伺いながら支援が出来るように努めています。又、一人ひとり自由に過ごせるように、気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診・ご家族との外出時・誕生会は勿論の事、大きな行事等や当日着用する洋服もその人その人のこだわりを大事にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査等を行い対応しているが、入居も長期になると趣味・嗜好も変化が見られ、注意をしながらバランス良い食事の提供と安全に摂取出来るように工夫しています(一口大・刻み等)その人に合わせています。片付けも含め出来る事が手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、記録し一人一人の量を把握しています。特に、水分量に対しては脱水等の危険性もある為、注意を払っています。お茶タイム時にも、コーヒーや紅茶等の種類も増やして摂取して頂いています。又、食事についても、摂取量が減少傾向の方については、主治医に相談したり、栄養食品等も飲んで頂く事もあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内(ケア)の清潔保持は、出来ない方は職員の介助で、出来る方は、ご自分で確実に行っています。本人様の力に応じて行っています。又、誤嚥の危険性のある方は、食事の前にはうがいを行って頂いたりしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や排泄間隔に合わせて、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをしたり、食物繊維や水分を十分に摂って頂くことは心がけてはいるが、慢性的な便秘の方にはどうしても緩下剤でのコントロールをさせて頂いています。(医師の指示もあり)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴支援を行っています。お一人お一人の体調・気分・レベル・ペースに合わせて介助しています。レベル低下により、浴槽に入る事が困難な方はシャワー浴になるが、足浴や浴槽のお湯をかけたりして、温まってもらっています。又、浴槽に入る方は入浴剤等も入れて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んでも頂いています。又、夜間の睡眠の妨げにならない様に配慮・働きかけも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、ご入居様の状況・状態に応じてその都度、訪問看護師及び主治医に伝えて処方の内容の検討を相談したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご入居様、お一人お一人になるべく役割を持って頂き、可能な限りしていただく事で生活が充実につながるよう支援しています。(洗濯干し・畳み・お盆拭き等)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、まだコロナ禍ですが、病院受診での外出やコロナ禍で出来なかった、ご家族様との外出が出来るようになり田舎の親戚等に合ったり、買い物をしてきたりと外に出掛ける支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の能力、希望に応じご家族様の意向も聞きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、事務所で管理とさせて頂いています。その中で、適		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙が届いたら、ご自分で読めそうな方には、誰から来たのか報告し渡しています。難しい方には、読んであげたりしています。電話については、聞き取れる方は本人様にお繋ぎし、ご自分で話しをされていますが、難聴の方については、近くにいて言葉を伝えるなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、毎日掃除等を行ったり、各とこに消臭剤等置くなど清潔の保持に努めています。又、明るさ・温度にも気を配り、心地良く過ごして頂けるよう工夫はしています。そして、季節の花をテーブルに飾ったり、毎月、壁の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ等を複数活用し、気の合う入居者同士で会話されたり、ゲーム等をしたり、その中に職員も関りながら過ごして頂いています。又、一人でくつろげる時間が持てる居場所づくりにも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くようにご家族にもご協力頂きながら、本人様が穏やかに過ごせるように環境作りに努めています。極力、自宅で使い慣れた物を使って頂いてはいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく・分かりやすく・安全にも配慮しながら自立した生活が送れるよう配慮しています。例えば、入居者の動く範囲には物を置かない等工夫はしています。		